



911.3  
ホ





新刻

題

更衣一

新樹三

柳取五

印西七

葦草九

牡丹十

余花二

若楓四

檣六

時鳥八

夏月十

牡丹三

海松 二六

白雨 二七

未摘花 二八

麻 二九

梅子 三〇

石竹 三一

常夏 三二

夕顏 三三

蓮 三四

扇 三五

納涼 三六

泉 三七

清水 三八

稜 三九

雜菱 四〇

葵 十三

葛蒲 十四

早苗 十五

青梅 十六

五月雨 十七

梅雨 十八

櫻 十九

蟬 二十

百合草 廿一

茄子 廿二

蒲 廿三

若竹 廿四

棠 廿五

水鷄 廿六

水窪 廿七

海松 廿八

白雨 廿九

未摘花 三十

麻 卅一

梅子 卅二

石竹 卅三

常夏 卅四

夕顔 卅五

蓮 卅六

扇 卅七

納涼 卅八

泉 卅九

清水 四十

枝 四十

雜夏 四十一

奥州仙臺社麻郡  
石巻中野任人藤原  
常世悪元春世世世  
中世世世世世世  
世世世世世世世  
世世世世世世世

天保六年 丙申 五月  
宗廟

夏

更衣一

新撰 かねてはよはに花の深さよきもの  
花よりとて人を病やけいの中  
世々としてを命とて世々花衣  
けいにおあうとまきやうや夏衣 宗祇  
さうさうと中のみお世衣な目  
山姫のとりくみよくやけいの目  
障のとりくみよくやけいの目 宗禎  
花よりあやいしくとてのけいの目 宗禎

面影をなせきとらむるかなり衣絶  
かり衣なきも心なるの記念が同  
ふふも花がくもくもとうと衣同  
はらうもておぼしき花のわの襟衣

余花二

<sup>園</sup>花のころ卯月の後の三月な

<sup>利</sup>花

まじりみおひりや花がくもく

<sup>新撰</sup>

花とまじり花とまじり花とまじり

花のこぼりの葉らこじは木末から

わの葉らり又花がくとはわとが

かりかけてくもくもをみまは花 寂

花をなせきとらむるかなり衣絶

かり衣なきも心なるの記念が同

ふふも花がくもくもとうと衣同

はらうもておぼしき花のわの襟衣

花のころ卯月の後の三月な

まじりみおひりや花がくもく

花とまじり花とまじり花とまじり

花のこぼりの葉らこじは木末から

わの葉らり又花がくとはわとが

かりかけてくもくもをみまは花

かり衣なきも心なるの記念が同

甚哉各々ありてはけそ山極同  
 茂りり中か一系乃々るも同  
 花かわつ系まもといはしそ同  
 くれの木とかなん半入のわろ系も同  
 いしとまの系のあ系乃々るとり同  
 うとわいひまとらりしあ系乃々同  
 花清し花れらるるかなの意 宿  
 花かまも甚はりりし柳代 案  
 雪かうに本かうう花れあ系乃々同  
 深山かそとやとや花とかなの意同  
 かなりりて山路や花のちとこ同  
 根りしはそと志のそと若系乃同  
 ちとゆかにとらや花とかなの意同

さけいらるる葉の本のちや葉は同

くは汐の葉味のちやの葉は同

あをきと神をワの葉は同

花やいっか刀ささかちる葉は同

葉に入てはくめやがくまの葉は同

### 平野教清自序

花のちにとりてはワの葉は同

### 江列平井たか門射取

本こいつは花とちや葉は同

さくら色は花のちもとて葉は同

花がよつくと花のち葉は同

花のゆきがけも葉は同

かきや花をけらるる葉は同

こさハツワのちや葉の葉は同

花とちやのちやの葉は同

葉のちやのちやの葉は同

花のちやのちやの葉は同

花のちやのちやの葉は同

花のちやのちやの葉は同

花のちやのちやの葉は同

花のちやのちやの葉は同



花がくさいとらん風はあふふかな同  
花よりさきわ〜とがらふふふふ同  
なり山乃志ありと花のゆ〜同  
志る〜人〜志けり〜同  
大蔵やつ〜と〜同  
麦山やわ〜と〜何日  
邦一乱乃後あり〜  
花い〜とわの〜  
花い〜とあ〜

新樹 三

志あると〜秋は〜と〜

秋は〜と〜山は〜と〜同  
志けり〜と〜神と禁の〜  
率た〜と〜の梢かな同  
夏と秋とい〜と〜  
志ある本は〜と〜  
志けり本は〜と〜  
志る〜と〜  
志る〜と〜  
志る〜と〜  
志る〜と〜  
志る〜と〜

世に去るわらわらもや  
世に去るわらわらもや  
いじりどやまたわらわら  
深山路に去け世は行く  
山路まじく

志くくらししかりと疾がさ  
志をなふと公家山入志くく  
来也秋のふきなひあやふ  
わらわらりうらては雨の  
あまふと秋やるふと薄  
志とてふ殊じりうらわ  
うはくははみあふふ  
去凡あわ秋ははるうら



そよやきくあしむはの若葉同  
感徳院あり

露乃ちら時雨とあり凡そなる露  
露と云ふ秋の下そよの若葉同  
花つと合くこきと木が也山ヒカリ若葉同  
わつとふかじり何と云なる花の根同  
花のいさや唐所とられ其木也同  
ミ山木乃ちに志くつてかんじば同  
常盤木と紅葉と秋の若葉同  
いりり刀之下とこの林ワう葉なる色  
秋のあけ吹ととさや若葉同  
こや俾れかゝるもかいつ其木とら目

あそこに志くく木と云の若葉同  
落葉せしあしむ山や其木也同  
こきは木や若葉れ中の葉は同  
とよこ木の花とわの葉は白也同  
うこもや山とあしむ其木目  
こいれとの志くくさたきも亦同  
秋やわじ志くく色は木も色同  
志くく木の志くくや流は木の根同  
秋じりの木枯もあしむ山也同  
こいとも志くくわじり玉やなも同  
木の枝はく刀がひそる口の葉同  
折らつて志くくて山と云し同

わらふふかしり何いからる辰のね同  
洲のいせや唐煎そらぬ基本<sup>同</sup>  
ミ山本<sup>同</sup>方に志<sup>同</sup>てかん<sup>同</sup>ば<sup>同</sup>  
常盤本と紅葉と秋の紅葉<sup>同</sup>  
いり<sup>同</sup>かん<sup>同</sup>下<sup>同</sup>の林<sup>同</sup>の葉<sup>同</sup>る<sup>同</sup>  
秋の葉<sup>同</sup>吹<sup>同</sup>と<sup>同</sup>さ<sup>同</sup>か<sup>同</sup>若葉<sup>同</sup>  
や<sup>同</sup>障<sup>同</sup>か<sup>同</sup>ら<sup>同</sup>ま<sup>同</sup>か<sup>同</sup>い<sup>同</sup>其<sup>同</sup>本<sup>同</sup>ら<sup>同</sup>日

あそこに志<sup>同</sup>らん本<sup>同</sup>の志<sup>同</sup>同  
落葉<sup>同</sup>や<sup>同</sup>あ<sup>同</sup>ら<sup>同</sup>山<sup>同</sup>の葉<sup>同</sup>本<sup>同</sup>之<sup>同</sup>  
こま<sup>同</sup>は<sup>同</sup>本<sup>同</sup>の葉<sup>同</sup>中<sup>同</sup>の葉<sup>同</sup>  
とき<sup>同</sup>は<sup>同</sup>本<sup>同</sup>の葉<sup>同</sup>の葉<sup>同</sup>同  
う<sup>同</sup>こ<sup>同</sup>ま<sup>同</sup>や<sup>同</sup>山<sup>同</sup>と<sup>同</sup>あ<sup>同</sup>ら<sup>同</sup>其<sup>同</sup>本<sup>同</sup>  
う<sup>同</sup>れ<sup>同</sup>の<sup>同</sup>志<sup>同</sup>らん<sup>同</sup>の<sup>同</sup>葉<sup>同</sup>  
秋<sup>同</sup>や<sup>同</sup>り<sup>同</sup>じ<sup>同</sup>志<sup>同</sup>らん<sup>同</sup>の<sup>同</sup>葉<sup>同</sup>  
志<sup>同</sup>らん<sup>同</sup>の<sup>同</sup>葉<sup>同</sup>の<sup>同</sup>葉<sup>同</sup>  
秋<sup>同</sup>じ<sup>同</sup>の<sup>同</sup>葉<sup>同</sup>の<sup>同</sup>葉<sup>同</sup>  
う<sup>同</sup>れ<sup>同</sup>と<sup>同</sup>志<sup>同</sup>らん<sup>同</sup>の<sup>同</sup>葉<sup>同</sup>  
ね<sup>同</sup>の<sup>同</sup>葉<sup>同</sup>の<sup>同</sup>葉<sup>同</sup>  
わ<sup>同</sup>ら<sup>同</sup>う<sup>同</sup>し<sup>同</sup>志<sup>同</sup>らん<sup>同</sup>の<sup>同</sup>葉<sup>同</sup>

海神の志多々やまきしり柳 同

一木より二木に志多々やまきしり柳 同

常盤木凡ワの葉にやうきさか 同

木枯のしんかどうまねぶ葉 同

志多々やま木の葉やねの板 同

志多々やま木の葉やねの板 同

志多々やま木の葉やねの板 同

根にのりと葉類と志多々やま木の葉 同

本かりし志多々やま木の葉 同

志多々やま木の葉やねの板 同

三井寺にして宮上里尺尾純守

追善に

凡に花を五つがもあはるる哉和同  
 あつ附日ほとがくはれつ葉の同  
 志ろく本は久がくはれ山とはなす同  
 海中に志ろくく本なき柳の同  
 一りしに志ろくくまはれし柳の同  
 一本より二本に志ろくくねす同  
 常盤本は口の葉にあらはれ同  
 本枯のしるみどろまはれぬ葉の同  
 志ろくく本は葉の折る板の同  
 志ろくく合て右つとろがく板の同  
 根にりくと葉の志ろくく本は葉の同  
 本かけし志ろくくやひろく本は葉の同

志ろくく本は志ろくくやをねに方枝の同  
 志ろくくくぬれ山のつ葉の同  
 志ろくくく梢とひん糸の同  
 志ろくくく本はのりにおし洞の同  
 秋の志ろくくくやの葉の同  
 志ろくくくくはれねの葉の同  
 志ろくくくくはれねの葉の同  
 志ろくくくくはれねの葉の同  
 志ろくくくくはれねの葉の同  
 志ろくくくくはれねの葉の同  
 志ろくくくくはれねの葉の同

三井寺にて宮上里尺尾能守  
 遊善に

病葉にあつた枝もさへ木の間は同  
秋にらるゝこころうらみもさへもては同

遊善

神風が雨露とけの葉の風も夏は  
本枯しとよけ山の志くは同  
あつたの雪の消すや其本は同  
志くうらひしてはさへ木の間は同  
仙介のこころうらみもさへもては同  
いと志けこ冬枯しや其本は同  
露をまきまきとよけ山の志くは同  
いとよけも枝もさへ木の間は同  
にえよめやも同あつたの葉もさへ同

ふこと外にかうこあつたの葉もさへ同  
天いふむかへ枝もさへ木の間は同  
常盤本とあ葉はさへもさへもては同

小野倉本

ね原の志くはさへもさへもては同

二村勝三良新造の會に

あつたの葉もさへもさへもては同  
わつ葉はいとよめさへもさへもては同

お信列をを城

ふさき言あつたの葉もさへもては同

若楓 四

秋のふと今よりいかにわづら  
いんせあくる會に

あうやあへーあのとあわづら  
初はめれたあさくらあはれ

秋にけてあはれとあはれあはれ  
下水にあはれいんせあくるあはれ

### 林取 五

あはれいんせあくるあはれ  
あはれいんせあくるあはれ

あはれいんせあくるあはれ  
あはれいんせあくるあはれ

あはれいんせあくるあはれ  
あはれいんせあくるあはれ

### 橋 六 昔の橋

あはれいんせあくるあはれ  
あはれいんせあくるあはれ

あはれいんせあくるあはれ  
あはれいんせあくるあはれ

あはれいんせあくるあはれ  
あはれいんせあくるあはれ

あはれいんせあくるあはれ  
あはれいんせあくるあはれ

あはれいんせあくるあはれ  
あはれいんせあくるあはれ

あはれいんせあくるあはれ  
あはれいんせあくるあはれ

新しきものも冬に  
秋にかけて垂れしと  
下水にうつりし心  
若くして窺

# 柿取 五

香るいづれ花をふりて  
神をこころよみに  
さかすまの山や下  
同

うりまは月をさかす  
うりまは月をさかす  
うりまは月をさかす

# 橋 六 昔の

立花のめりひらり  
はら花を梅らうり  
ふりまは花の香ら  
橋にともとの  
はら花を梅らうり  
ふりまは花の香ら  
橋にともとの  
はら花を梅らうり  
ふりまは花の香ら

橋よりいづがけいさるる秋同  
いまちも風やならまをまたき同  
ふら花にそがきてみおのれ同  
さくらに霜よきはさのうこち同  
とこしし社おあそ

と花にむよ六神れじしち同  
ならまをよこきてみおのれ同  
ことおをそ花にら花のめい同  
仙人やとをならまははのけり同  
なら花にほらやうこしあれ同  
さくら花にけす人死れ白いろ同  
さくらまを河酒にけりこち同  
宮同

ならまをよれよあまを白いろ同  
橋はみとありをよるめい同  
ちくれまとのほら白いろ同  
さくら色やよこ花のめい同  
花にふよ海とこしきの世に法同  
まじりかまもにち花のめい同  
なら花の香ととあり花をれ  
下門太良た湯つ真行

橋のまをれたひなら白い罪同  
なら花のめいやゆける梅花養  
橋はらまをよこしおあいろ同  
さくられいよこちの死の倒る色

まぐれに霜よほきぬのうらむ同  
まぐれに霜よほきぬのうらむ同

と花にむすみ種れじしむら同

乃ら花にむすみ種れじしむら同

ことむらむ花にむすみ種れじしむら同

仙れやと花にむすみ種れじしむら同

乃ら花にむすみ種れじしむら同

まぐれに霜よほきぬのうらむ同

まぐれに霜よほきぬのうらむ同

乃ら花にむすみ種れじしむら同

橋はみとありをむすみ種れじしむら同

ちくれむとありをむすみ種れじしむら同

まぐれに霜よほきぬのうらむ同

花にみよほきぬのうらむ同

まぐれに霜よほきぬのうらむ同

乃ら花の香しとありをむすみ種れじしむら同

下門太良乃湯つ真行

橋のむらむれたひかりの白い影同

乃ら花のむらむれたひかりの白い影同

橋のむらむれたひかりの白い影同

まぐれに霜よほきぬのうらむ同

織てちを麻ふはめぬる此が宗祖

新撰

卯の花のまげにあらう一冬分  
うぬるる月うはまのなれゆき  
うはこころ里ふつまのひめり  
卯花とあつとゆきれ下巻  
なわうふゆよと卯の花のこり

園

卯の花の雪けのあつなほの雨  
卯の花の雪のまけぬ雪の枝  
さねをしるうはまや花の夕月  
うのなれふかりまの月夜  
卯の花よひかて雪とかりて  
きうことと卯花ゆはまは  
乃事ととれ花月山ころる疾  
うの花の月ばらう公もなし同  
卯の花に月君とらんかると同  
うの花となうう雪れ一まうな同  
うのなれの雪や雪のいんう同  
うはまか雪はまめく小あうな同

橋の白ひかりのいびき〜同  
まをた〜いびき〜世のみき〜同

# 卯花

卯の花よ〜と〜る根やきの花の枝の

うたれ月には〜ふくま〜るの花の枝の

織て〜を麻ふはめ〜るの花の枝の

新撰卯の花よけに〜る〜るの花の枝の

うたれ月には〜る〜るの花の枝の

うたれ〜里か〜のいびき

卯花とあ〜とゆ〜るの花の枝の

な〜る〜と卯の花は〜る

因卯花れの雪けのあ〜るの雨

卯の花の雪のた〜るの枝

さ〜と〜るは〜るの夕月

うたれ〜るは〜るの月花

卯の花よ〜るは〜るの

侍卯の花よ〜るは〜るの

卯の花よ〜るは〜るの

卯の花よ〜るは〜るの

卯の花よ〜るは〜るの

卯の花よ〜るは〜るの

卯の花よ〜るは〜るの

にはまごりの花かきのみ面も同  
 うの花とまごいともかきをぬこりも同  
 卯の花はよ木下はるく山崎郡同  
 びりともかき洞ともれくくう月も同  
 ゆきに教あつる花とくし花はき同  
 うの花やまごいともかきも同  
 うの花はるくう花月あつるも同  
 さにあひお初うの花のまごい同  
 うの花はるく花かきともかきも同  
 まごいともかき花垣ともかきも同  
 うの花やまごいともかきあき月も同  
 卯の花はまごいともかきの父月も同 宗碩

卯の花はあつるくくまはまごい同  
 うの花は月とまごいともかきも同  
 はじりともかきお花のまごい同  
 うの花やかきともかきも同  
 木同りともかきう花やま月も同  
 卯の花はゆきともかきのあき同  
 月とらへ雪にまごいともかきも同  
 りともかきのまごいともかきも同  
 ちともかきともかきも同  
 卯の花はまごいともかきの初月同  
 木同りともかきう花はま月も同  
 うの花やまごいともかきの花は同

卯辰の年...  
うのそり雪...  
うらんるの...

時鳥

世に...  
<sup>作</sup>花も...  
祢...  
く...  
郭...  
子...  
山...

花

月...  
...  
...  
子...  
山...

月は向の雲すにちかけ郭公  
 こかたれかとうははくす郭公  
 せんりしとけりしてあらん郭公  
 侍るまで月よそきよのむ郭公  
 啼はきあすんときまらん郭公  
 かけんも忍ぶるこころも郭公  
 月にかけぬぞとあつきの郭公  
 きよのしをよす夜一会なりきた  
 まてんぼしかなと目とおも郭公  
 くとこころしとこころも郭公  
 子規がうぬくらん若きあはらしき  
 山むこころと若きあはらしき

たゞまに花もよらあろ深み

あはれ野草もくくわたり

竹林毛

一とちかかふ山あつて一郭と

まして刃さしうらまえてもかく郭と

うはけりあなを山秋の郭と

うとうはじ山の木末やわたり

あはれもさ月になつて雲あ

ふにまじりてはけりよるもさ

秋ひしに木のあはれも郭と

あはれもさ一花さけはるも郭と

らる花もあはれさり一郭と

まして世よつくとあはれも郭と

まはに啼音とあはれも郭と

あはれも人よるも郭と

あはれもあはれはつては子親

待

ふはしりかあなをと山秋の郭と  
くしうはじ山の木末や新くす寸  
かきまを月にかきく雲の  
ふにまじりてはけよるまはす  
秋ひにけとのわむと郭と  
国ふしうま一花はけはるの若ら  
らくたや秋よわさや一郭と  
かしてせようくをまか愛く霍

壁

まかに啼音とあともくそ郭と  
ふしうまを人よとん若と郭と  
まし郭もあはけはつせけ子親  
はしきすいそらふ右の若のり  
ふくまあはせりともくよ郭と  
月とあつらふ一息うたへる寸  
ましうまかな女かたあせと郭と  
かきうは根くし山をまじり信  
校りくともらりらふよ郭と  
のまえしやまられけと郭と  
かきまをすまじりわの志原か  
なましくもあつらふと郭と義

せむしと花やたらりし子奴同  
 らしてくれしとぬるよ郭同  
 妻とらふ初書とわかく郭同  
 くれや招よぬるとな子奴同  
 まにまものてん書と花と郭同  
 ららりらわとて郭とを楯同  
 初書かあまおとくままにけり目  
 面ツレぬらよらりしと郭同  
 夜を守まらふいけと守同  
 歎冬とらぬのさつと守同  
 ぬらと時とらぬと守同  
 たり人といふくはてと郭同  
 侍人といふとわかく郭同  
 いとすすまるとりてと郭同  
 奔とまらふとぬらと守同  
 ぬらとさつとらりしと郭同  
 たり人に心合せと守同  
 たりしとわ初とてと郭同  
 ねとぬらとらりしと郭同  
 たりしとぬらとらりしと郭同  
 たりしとぬらとらりしと郭同

たりしとぬらとらりしと郭同  
 たりしとぬらとらりしと郭同  
 たりしとぬらとらりしと郭同



里つしなまいれもは郭と同

うりしなまいれもは郭と同

まなつしなまいれもは郭と同

ゆつて岡山らきりし郭と同

うりしなまいれもは郭と同

ふりしなまいれもは郭と同

ふりしなまいれもは郭と同

ふりしなまいれもは郭と同

郭とてふはふりしなまいれもは郭と同

ふりしなまいれもは郭と同

ふりしなまいれもは郭と同

ふりしなまいれもは郭と同

郭とてふはふりしなまいれもは郭と同

ふりしなまいれもは郭と同

ふりしなまいれもは郭と同

一發やあひかてのられ郭と同

二發乃今とてふはふりしなまいれもは郭と同

ふりしなまいれもは郭と同

五月のりしなまいれもは郭と同

りしなまいれもは郭と同

祓りしなまいれもは郭と同

天海宮の會に

ふりしなまいれもは郭と同

郭とうとうとふとふとびじんの郭も同  
けいすくすをいんせいの郭も同  
夢のうちは初夢や子命くま寸同  
一夢にる夢やうの郭も同  
一夢やあひのりそのられ郭も同  
二夢乃今とさししとむす寸同  
くんの郭きくあははいく郭も同  
五月のうゑととよむ郭も同  
うのなかにあつたのり郭も同  
祢りぬとまのり郭も同  
天は宮の會に

かきよはるの夜やなつと白山月

情列るる山なるをいふ

なす守るまきるるの山なるをいふ

依中國にして

まきしつ山なるをいふ

青羽山なるをいふ

まにまに山なるをいふ

郭なるをいふ

横川乃坊めし

書とていふ雲の山なるをいふ

郭なるをいふ

つうをいふ雲の山なるをいふ

なるをいふ

郭なるをいふ

あつとていふ雲の山なるをいふ

郭なるをいふ

月を母の山なるをいふ

あつとていふ雲の山なるをいふ

なるをいふ

月を母の山なるをいふ

何なるをいふ

なるをいふ

なるをいふ

なるをいふ

難波の山なるをいふ

とりのしよのなにしきよ郭と同  
たふふいし丹凡先重能かは同  
跡き山ホて

郭くうは山とかなたうも雲井小同  
かのれ若く急りたは郭と同  
書とてふとてふとてふと郭と同

小野乃社會所なは乃事  
一明て後余前にして

あつあつとあつあつ山い郭と同  
名号れ連哥に

名や社會をかくせしけしと同  
あつとり古きまはせ郭と同

右郭ときうけをけけ郭と同

いり同とふくしとんかす同

こしとてしよ身が古きれ郭と同

あつあつ山跡をけけけ同

ことき團に也まーは

いそかきとていしとて郭と同

さそいはとてとてとて郭と同

小國にうりうりーは

うああいれ凡にはけと郭と同

いこり啼うのこ郭と同

かろて又初言に也すかすも同

うはながまかくいさしりも同

山や今かふるくそん祿郭公同

卯月ぬくし女子親と

すらとあ一帯をたてる祿郭と霜

泉列一カウとそりゆしに

まじしかりとらふ志のその子親同

まき志り一深山や初書なりまに同

教うこし人とたにふのむを同

丹波よりそりゆしに

ふくしのこらとらふ志のその子親同

栲列萱野如林草唐にて

ゆ人に牽く人乃こそなりしそを同

かきまは志のい書なりしふ山に同

祿神もかりゆす都がしに同

志のいはまありしとる者郭と同

法とまらしとらふ女子親同

花にかもかりゆす初書郭と同

栲列接並並流去唐にて

ふくまふがしとらふ郭と同

かきまは志のい書なりしふ清と同

とらふ山に流がしに同

栲列送巻にて

たふふ月きり明けのそりゆしに同

泊瀬山よりゆりて

二本乃と記してにせよなりしそを同

麻有六書

子也麻也麻也麻也麻也

上麻也麻也麻也麻也

子也麻也麻也麻也麻也

麻也麻也麻也麻也麻也

子也麻也麻也麻也麻也

又麻也麻也麻也麻也麻也

子也麻也麻也麻也麻也

子也麻也麻也麻也麻也

子也麻也麻也麻也麻也

子也麻也麻也麻也麻也

子也麻也麻也麻也麻也

子也麻也麻也麻也麻也

子也麻也麻也麻也麻也

上麻也麻也麻也麻也

子也麻也麻也麻也麻也

子也麻也麻也麻也麻也

子也麻也麻也麻也麻也

子也麻也麻也麻也麻也

子也麻也麻也麻也麻也

子也麻也麻也麻也麻也

子也麻也麻也麻也麻也

子也麻也麻也麻也麻也

子也麻也麻也麻也麻也

卯ねんれんはまながしと時鳥同  
一変にはくたことなりきまを同  
郭とくたれをらるる月れ同  
志の音とまなりきまの郭と同  
かけとあよ月とくた郭と同  
考とくたれをらるる郭と同  
郭とくたれをらるる郭と同  
まらるる思ひ移られはる郭同  
くた月いてくた山れ子祝同  
くたがまてかたるる郭と同  
郭とくたれをらるる月れ同  
天の月やあけくたくた同  
月村遊善に

あさくくくゆらよた郭と同  
言せよくくくく若郭と同  
郭とくたれをらるる月れ同  
くたくた人傳がくた郭と同  
郭とくたれをらるる月れ同  
くたくた月とくた郭と同  
くたくたくたくた郭と同  
くたくたくたくた郭と同  
くたくたくたくた郭と同  
くたくたくたくた郭と同  
くたくたくたくた郭と同

志のきこうしんやきこうなる郭と同  
いほくしんらわつはらも人を子親同  
かつていほくしんらわつはらも郭と同  
あつたきりけあつたきりけ郭と同

宗碩進善

宗碩がまきいへいひのまきりけ同  
行やいへいひのまきりけ郭と同  
作あつたきりけあつたきりけ同

月村進善に

つばよとたはらういへいひ郭と同  
後しんらわつはらも山がきりけ同

豊日ぬきしんやきりけあつたきりけ同

豊後村お屏共束射場と真行十句

まらしんらわつはらも一丁急郭と景  
岑しんらわつはらもいへいひ親同  
永原十句

郭らりして志のきこうなる同

成田丸進

一丁急しんらわつはらもいへいひ同  
小泉湯あつたきりけ小泉はら真行  
月や一急しんらわつはらもあつたきりけ同

進着山城守

郭らりしんらわつはらもいへいひ同

永原千句

同

ときにけりたてし初言郭之同  
すけのひとちいそ夏そむき同

宗碩遊善十七回千句

もふそ若りそやかよそ郭之同

もふ海とたかおしじそ郭之同

か歌よの歌やそい祢ほそそ同

旅行人真句

飛つこに啼りん山は浦はひ同

永原千句

月といは息とせそつら郭之同

遊善句

うそよよいらつらそそ子親同

永原千句

もふ歌の葉山志あつたそ同

月にあそし山のたつら郭之同

はの末と因しやむかそそ同

いあしにかたやそそ郭之同

一夏やそものひとほそそ同

あつらのおつらやそそ同

一夏にそつら山本郭之同

一夏やそりぬらそそ同

山あそそそそこれ松のそ同

つらつらそ我のそ山右郭之同

一發一 月や去るはの郭 同  
雨一 なるがしすの穴を時鳥同  
まぬれはきかすけよ郭 同  
あやとよまぬあやとよ郭 同  
明にかりこ一 登しす山登りす寸同  
すらねむしめゆくの時鳥同  
一發やらうむらの山登りす寸同

伯列大山にて

いはりらん山六白雲郭 同  
後上るよて

郭とらそらん縁なりとじハ絶  
たよのたかり縁のあじ子祝 同

川いもの山を去るしゆりす寸同  
きうりこたきうがすよ郭 同

遊善一回忌

かくやうもまよひ縁芝の習鳥 同  
遊善

あはばらん善もあな郭 同  
同

志きふよ竹急とよを時鳥 同  
同

よんがくあはれよいあ郭 同  
郭とかりやあうらん関じ 同  
一發やあはれのうらねとよに 同

なかりとてうらと移る秋時鳥同  
郭公あやうすくも門田丸同  
なすくはいさじくとあはれ松石同  
山とて一しとてまうく郭公同  
一丁急や月とて人ほなすくも同  
あいらいゆいぬ夜ぬあそと松石同  
なすくもす雲路につまよわん同  
いふじとてうかんと郭公同  
月夜まう月まうもや郭公同  
じーるや啼きとあはれ時鳥同  
月とて一しとてまうくも同  
人ほとてあうて入山なすくも同

郭公あやうすくも門田丸同  
なすくはいさじくとあはれ松石同  
山とて一しとてまうく郭公同  
一丁急や月とて人ほなすくも同  
あいらいゆいぬ夜ぬあそと松石同  
なすくもす雲路につまよわん同  
いふじとてうかんと郭公同  
月夜まう月まうもや郭公同  
じーるや啼きとあはれ時鳥同  
月とて一しとてまうくも同  
人ほとてあうて入山なすくも同

人傳の了たよあをるがしき寸同  
と終るしれびとす自也郭公同  
かきて行つるやとりの志郭公同  
能くうに山路わと河都れ同  
何可あてい注のまに録し時鳥同  
郭公のゆく志とりのみ名なると小同  
即しうと申しれたてのあをる洞

十三廻追善

下しうとあよとあなれしと時鳥同  
天にとしうりの言りら郭公同  
はよとあてあるあやとる字親同  
いよとくはあやの神子郭公同

餞別

かあよとらあやといらと郭公同  
まよとけいすしと雲井時鳥同

追善

いよとあつたかく言うあや郭公同  
そしにあなとといやまじと子親同

追善

あしうとにがまよととらと郭公同  
京より伏見右の人のあや  
右の魚てのあよとけしれしと子親同

追善

郭公いじかきととらと郭公同

松平甲列真行

行一之七の二の二の二同

# 夏草九

夏草目は草葉と名の西也哉

二七九葉の子根と云ふ野

夏草と云ふ根は行也

行一之七の二の二同

志草と云ふ根は草葉

行一之七の二の二同

草の目は草葉と名の西也哉

山をれて野と其草の一本も亦同  
 年ぬもこころ志し草の系同  
 かのらふことくる色をらふ初れ同  
 ゆく水とがけの草もさうなほ同  
 ころ秋のそれがけの草竹の同  
 かり草の雲に生くること野も同  
 まつふとじよふにらばらさう共同  
 ゆきてたしよまあるあとも同  
 かりの目にわの草なる海同  
 其草とよれれわくろ花野も同  
 乃くときせは志する草と同  
 其草のたぐくものまうも同  
 花の根にあはれ野の草も同  
 其草とよまあるあとも同  
 其草とよれれわくろ花野も同  
 三れぼれとさうりさなかり同  
 侶也遊善  
 志あるまうとよれれ花野も同

菴  
 其月十

水とせれ月とらつてか白とほ  
 新撰竹林三  
 月神一柱やまうかがも  
 更てたぬ走ととく夕月夜  
 明るて一舟に帆をる月と本

暮れぬは月も更なるれ  
 ちうりあいの月よしの風  
 明やきほよいとていよの義  
 端りく暮のまらぬ夜は月同  
 ちよていぬむらりと源は月同  
 暮れぬは月も更なるれ月同  
 けんの夜は月も更なるれ月同  
 けりとも月と玉えれ夕をくも同  
 月をけり朝暁くくくくく海同  
 月も今朝は月も更なるれ月同  
 くのまとも月も更なるれ月同  
 くのまとも月も更なるれ月同  
 くのまとも月も更なるれ月同

あうえよと月も明し暮れぬ同  
 ちうりあいの月よしの風同  
 明りよ月も更なるれ月同  
 暮れぬは月も更なるれ月同  
 けんの夜は月も更なるれ月同  
 けりとも月と玉えれ夕をくも同  
 月も今朝は月も更なるれ月同  
 雨宿と暮ていよと月も更なるれ月同  
 くのまとも月も更なるれ月同  
 けんにけりけりや程かんのれをくも同  
 あうの豊や月も更なるれ月同  
 くのまとも月も更なるれ月同

おのりて

三列おのりて

おのりて

おのりて

おのりて

おのりて

かんの夜の月らまのせのけし<sub>三</sub>日  
夕月よと都りよ<sub>三</sub>其れを<sub>三</sub>世同  
口の葉かんの夜はけり<sub>三</sub>夕月夜同  
月にまをま<sub>三</sub>葉の<sub>三</sub>あめれ夜同  
其れ夜<sub>三</sub>明て<sub>三</sub>り<sub>三</sub>月<sub>三</sub>れ<sub>三</sub>葉<sub>三</sub>同  
た<sub>三</sub>り<sub>三</sub>ま<sub>三</sub>と<sub>三</sub>や<sub>三</sub>し<sub>三</sub>ハ<sub>三</sub>秋<sub>三</sub>夜<sub>三</sub>其<sub>三</sub>夜<sub>三</sub>同  
か<sub>三</sub>夜<sub>三</sub>か<sub>三</sub>く<sub>三</sub>ま<sub>三</sub>り<sub>三</sub>と<sub>三</sub>と<sub>三</sub>ま<sub>三</sub>り<sub>三</sub>れ<sub>三</sub>月<sub>三</sub>同  
其れ夜<sub>三</sub>月<sub>三</sub>に<sub>三</sub>ま<sub>三</sub>り<sub>三</sub>れ<sub>三</sub>夜<sub>三</sub>を<sub>三</sub>れ<sub>三</sub>同  
その涼し<sub>三</sub>月<sub>三</sub>れ<sub>三</sub>り<sub>三</sub>かん<sub>三</sub>の<sub>三</sub>り<sub>三</sub>川<sub>三</sub>同  
こ<sub>三</sub>の<sub>三</sub>葉<sub>三</sub>に<sub>三</sub>ま<sub>三</sub>ま<sub>三</sub>け<sub>三</sub>し<sub>三</sub>霜<sub>三</sub>や<sub>三</sub>其<sub>三</sub>月<sub>三</sub>同  
月<sub>三</sub>と<sub>三</sub>し<sub>三</sub>か<sub>三</sub>け<sub>三</sub>や<sub>三</sub>清<sub>三</sub>く<sub>三</sub>う<sub>三</sub>い<sub>三</sub>と<sub>三</sub>ら<sub>三</sub>り<sub>三</sub>同  
ま<sub>三</sub>れ<sub>三</sub>お<sub>三</sub>の<sub>三</sub>月<sub>三</sub>や<sub>三</sub>ま<sub>三</sub>り<sub>三</sub>川<sub>三</sub>ま<sub>三</sub>り<sub>三</sub>毎<sub>三</sub>同  
月<sub>三</sub>と<sub>三</sub>か<sub>三</sub>ら<sub>三</sub>に<sub>三</sub>か<sub>三</sub>ろ<sub>三</sub>の<sub>三</sub>際<sub>三</sub>に<sub>三</sub>れ<sub>三</sub>京<sub>三</sub>同  
月<sub>三</sub>れ<sub>三</sub>ら<sub>三</sub>に<sub>三</sub>か<sub>三</sub>け<sub>三</sub>ま<sub>三</sub>け<sub>三</sub>り<sub>三</sub>れ<sub>三</sub>京<sub>三</sub>同  
か<sub>三</sub>り<sub>三</sub>夜<sub>三</sub>れ<sub>三</sub>を<sub>三</sub>や<sub>三</sub>本<sub>三</sub>の<sub>三</sub>あ<sub>三</sub>れ<sub>三</sub>月<sub>三</sub>同  
冬<sub>三</sub>く<sub>三</sub>は<sub>三</sub>間<sub>三</sub>と<sub>三</sub>早<sub>三</sub>き<sub>三</sub>や<sub>三</sub>其<sub>三</sub>れ<sub>三</sub>夜<sub>三</sub>同  
と<sub>三</sub>し<sub>三</sub>く<sub>三</sub>の<sub>三</sub>月<sub>三</sub>と<sub>三</sub>な<sub>三</sub>ま<sub>三</sub>や<sub>三</sub>人<sub>三</sub>の<sub>三</sub>夜<sub>三</sub>同  
い<sub>三</sub>て<sub>三</sub>入<sub>三</sub>と<sub>三</sub>月<sub>三</sub>を<sub>三</sub>ま<sub>三</sub>り<sub>三</sub>の<sub>三</sub>葉<sub>三</sub>を<sub>三</sub>同  
涼<sub>三</sub>し<sub>三</sub>か<sub>三</sub>れ<sub>三</sub>れ<sub>三</sub>を<sub>三</sub>ま<sub>三</sub>り<sub>三</sub>夕<sub>三</sub>月<sub>三</sub>夜<sub>三</sub>同  
夏<sub>三</sub>ハ<sub>三</sub>い<sub>三</sub>か<sub>三</sub>ま<sub>三</sub>し<sub>三</sub>夜<sub>三</sub>を<sub>三</sub>い<sub>三</sub>と<sub>三</sub>と<sub>三</sub>夜<sub>三</sub>其<sub>三</sub>月<sub>三</sub>同  
月<sub>三</sub>と<sub>三</sub>ら<sub>三</sub>て<sub>三</sub>秋<sub>三</sub>と<sub>三</sub>ま<sub>三</sub>り<sub>三</sub>と<sub>三</sub>河<sub>三</sub>を<sub>三</sub>れ<sub>三</sub>同  
く<sub>三</sub>んの<sub>三</sub>の<sub>三</sub>お<sub>三</sub>の<sub>三</sub>月<sub>三</sub>や<sub>三</sub>ま<sub>三</sub>り<sub>三</sub>申<sub>三</sub>人<sub>三</sub>の<sub>三</sub>夜<sub>三</sub>同  
せ<sub>三</sub>り<sub>三</sub>し<sub>三</sub>よ<sub>三</sub>と<sub>三</sub>あ<sub>三</sub>り<sub>三</sub>ま<sub>三</sub>り<sub>三</sub>と<sub>三</sub>夕<sub>三</sub>月<sub>三</sub>同  
冬<sub>三</sub>く<sub>三</sub>夜<sub>三</sub>を<sub>三</sub>ま<sub>三</sub>り<sub>三</sub>と<sub>三</sub>申<sub>三</sub>人<sub>三</sub>の<sub>三</sub>夜<sub>三</sub>同

尺一<sup>一</sup>の夜と誰かけぬる月同  
いづれと誰かけぬる月同  
いづれと誰かけぬる月同  
いづれと誰かけぬる月同  
いづれと誰かけぬる月同  
いづれと誰かけぬる月同  
いづれと誰かけぬる月同  
いづれと誰かけぬる月同  
いづれと誰かけぬる月同  
いづれと誰かけぬる月同

遊音

あしとかりとくも其夜は月同  
あしとかりとくも其夜は月同

紹也遊音

かんの月よりくも其夜は月同  
如水遊音

か波隼

尺一<sup>一</sup>の月とわたりくも其夜は月同

牡丹 上

露や花をみよるは涼の草 尺一

鳥とむきて花やたなく 蝶之草 同  
春あきやかりとあふ 露れふりこ 草 同  
けとくこらきりや 花のふりこ 草 同  
十日あまうと 咲やわつ者と 花れ草 同  
花の上にいしく 朝露のふりこ 草 同  
ふりかひや 葉ふ 花れ草 同  
花れ草のふりこ 花れ草 同

牡若 十二

壁  
根やかりと 花れ草 同  
はまよあて 郭公すて 花れ草 同  
きりかき 花れ草 同

花れ草のふりこ 水草 同  
咲のこを 花れ草 同  
花れ草のふりこ 花れ草 同  
咲よかり 花れ草 同  
花れ草のふりこ 花れ草 同

宗頑退善

花れ草のふりこ 花れ草 同  
花れ草のふりこ 花れ草 同

かげしうみまじり申かりれ日

葵 十三

苞 葵代とけてそぬとるあひま  
壁 じり目も落く朝とあまむか  
じり目とふいせに分人の何ん哉  
枯葉かともうとこもあま同  
月瓜られ芝やあまあま露同  
けてかまをいけむぬ葉れ 寢

苜蓿 十四

苞 常に分るすこらつじあま草

今朝はと苜蓿のすのちねはま  
水にぬれぬすこらつじあま  
ぬすの雨も又らこゆあまれ  
まのこも根分こもら苜蓿草  
ふかすこあまとも行れ 寢  
花のちにもあま分れきかれ同  
花もむく神れもくをあま同  
今宵もあまも旅れりねれ同  
きのこもあまのふれねの苜蓿草同  
花にもあまもこの何れも同  
のこもあまも寝れぬあまも同 寢  
花もり分れぬあまも同

川はあや先にもくもく汗く月  
かりまろく孫もあに白く草補か同

五月四日

花々五月あやちら何とれれして六  
らまろく孫もあに白く草補か同  
川はあや先にもくもく汗く月  
かりまろく孫もあに白く草補か同

五月六日一回遊音不るとに十

に夕独吟<sup>句</sup>首<sup>句</sup>徑<sup>句</sup>夜と垂て

花々五月あやちら何とれれして六  
らまろく孫もあに白く草補か同  
川はあや先にもくもく汗く月  
かりまろく孫もあに白く草補か同

長た根ら川とけくは高補八目  
今よに小おとさほあるを久那同  
川のこせ又ぬきける久那やうり同  
あはよれおとけうりも高補八目

### 早苗 十五

ゆきうなるひとてせく早苗が  
お苗うりふをかほれおとれ  
お勝がきくわいふも苗れ赤葉か  
こたやうてお山ちこもさ苗れ  
苗にして民ぬあさきう子里哉  
そや秋さうりおれく思れ松

ゆきうなるひとてせく早苗が  
水刃をら本としじかろの山白れ同  
まじきおに露をうらうりさかへ同  
あかんとちかろ白子れおとれ同  
竹の葉とわつ苗がいく門白同  
早苗をすいたまれこ山か那同  
うのりうことおをわれ山白同  
大古田にあうことおあを早苗れ同  
うさぬれ雨にけひくや秋れ雲同  
あしやカクううりさかろの末れ秋同  
秋れ枝れおとけうりさかへ同  
うさう甲一秋れおとあうり松同

登れきことろが人けとよむる  
 巾の入れのせだりなす苗れ霜  
 庭のうはのあきとよゆい苗同  
 けりきとよ志考の柳の門同  
 ちかく秋すけじりわの白が霜  
 高柳ら凡れりきり門同  
 うのいせのりあをれゆみ同  
 回しやのりこぬり人同  
 凡れもらこは浪あは早苗れ同  
 ちかちか秋とよゆい湯白も  
 千ウー  
 甲のりかき凡れりきり苗れ霜  
 甲の水とやけりり苗れ霜同  
 甲せとやけり霜らゆはは苗れ霜  
 あすえとやけり霜とやけり霜同  
 秋とよそとやけり霜とやけり霜同  
 うりり中とやけり霜とやけり霜同  
 うるらやけり霜とやけり霜同  
 月けもれ末葉にあまはり霜同  
 うりりゆいりやけり霜とやけり霜同  
 さかちりり霜とやけり霜とやけり霜同  
 月ら霜とやけり霜とやけり霜同  
 若れ葉りり霜とやけり霜同  
 秋凡とやけり霜とやけり霜同

登れきことろが人けとよむる  
 巾の入れのせだりなす苗れ霜  
 庭のうはのあきとよゆい苗同  
 けりきとよ志考の柳の門同  
 ちかく秋すけじりわの白が霜  
 高柳ら凡れりきり門同  
 うのいせのりあをれゆみ同  
 回しやのりこぬり人同  
 凡れもらこは浪あは早苗れ同  
 ちかちか秋とよゆい湯白も  
 千ウー  
 甲のりかき凡れりきり苗れ霜  
 甲の水とやけりり苗れ霜同  
 甲せとやけり霜らゆはは苗れ霜  
 あすえとやけり霜とやけり霜同  
 秋とよそとやけり霜とやけり霜同  
 うりり中とやけり霜とやけり霜同  
 うるらやけり霜とやけり霜同  
 月けもれ末葉にあまはり霜同  
 うりりゆいりやけり霜とやけり霜同  
 さかちりり霜とやけり霜とやけり霜同  
 月ら霜とやけり霜とやけり霜同  
 若れ葉りり霜とやけり霜同  
 秋凡とやけり霜とやけり霜同

玉のあの人らにたゞもみくさ同  
 かりし七徳の新川小田瓜同  
 草をふしとすしとさか人同  
 うわのぼり田たくたきほこ同  
 水蒸とせと急つか人のここ同  
 志のふしあとしり苗瓜と葉ハ同  
 ちかもんちる瓜うちるち苗ハ同  
 かん山瓜はいい瓜ハ門田ハ同  
 一とられさかんとこれハ葉ハ同  
 ちかちららととれハ田ハ同  
 田家とらとらとらハ秋瓜ハ同  
 ちかちらとらとらとらハ同  
 國うとあはけハ田ハ同  
 いち水ハ瓜ハ瓜ハ同  
 じり苗ハ瓜ハ瓜ハ同  
 生とてととととハ同  
 其刈瓜ハ瓜ハ瓜ハ同  
 薩列ハ瓜ハ瓜ハ同  
 秋瓜ハ瓜ハ瓜ハ同  
 青梅ハ瓜ハ瓜ハ同

青梅 十六

青梅の葉ハ瓜ハ瓜ハ同

八月雨 十七

春雨りぬるとりぬるぬるぬるぬる  
 雨きりぬるぬるぬるぬるぬる  
 とらららららららららららららららら  
 くるくるくるくるくるくるくるくる  
 たり雨に脚れぬるぬる五月のなす  
 夏川に系うりぬるぬるぬるぬる  
<sup>色</sup> たりぬるぬるぬるぬるぬるぬる  
 五月雨に水かきぬるぬるぬるぬる  
<sup>新標</sup> たりぬるぬるぬるぬるぬるぬる

美秋八中川に系うりぬるぬるぬるぬる

雨とがぬるぬるぬるぬるぬるぬるぬる

はらららららららららららららららら

たりぬるぬるぬるぬるぬるぬるぬる

雨あけか利てぬるぬるぬるぬるぬる

一秋ぬるぬるぬるぬるぬるぬるぬる

<sup>壁</sup> たりぬるぬるぬるぬるぬるぬるぬる

たりぬるぬるぬるぬるぬるぬるぬる

たりぬるぬるぬるぬるぬるぬるぬる

たりぬるぬるぬるぬるぬるぬるぬる

たりぬるぬるぬるぬるぬるぬるぬる

たりぬるぬるぬるぬるぬるぬるぬる

たりぬるぬるぬるぬるぬるぬるぬる

ありぬら志平風遠いそぬらん同  
さへしおらいつくさ地丁の初平女同  
五月雨八雲井凡らんむいぬ山同  
はなすおら山あまにしなふらん女同  
ありぬらにあきぬぬろく坂ふれ同  
さへしおら花のぢらううり坂世同  
み月雨くかおあぢかき夕夕柳同  
あまふらうてさへしおら凡れ世同  
さへしおら山うらうらうておとがう同  
さへしおらの雲きかきうあふ白同  
ありぬらうあてしといくう水ぬ發同  
はなすおら山あまにしおらん凡同  
さへしおら山あまにしおらん凡同  
さへしおら山あまにしおらん凡同  
もおら海うりし内六月雨同  
棹山のうりうぬ雲凡れ志平同  
ありぬら志平うらう凡れ深山凡同  
さへしおら山あまにしおらん凡同  
志平あまにしおらん凡れ深山凡同  
雨にさへしおら山あまにしおらん凡同  
さへしおら山あまにしおらん凡同  
ありぬら山あまにしおらん凡同  
み月雨山あまにしおらん凡同  
雨にさへしおら山あまにしおらん凡同  
ありぬら山あまにしおらん凡同

あり多る子鳥日す世の竹同  
五月雨八汀のあまに白くありて同  
雨と世はこまきく民れ五月の那同  
こころをうり霧のかけかろ子鳥の同  
あけあつこころなきいくさ花り同  
こころをうり流はるか多木をれ松同  
はくしたるを雲よ流るる流るる霖

南都にて

こころをうりなれ川畑と雲井の同  
ありるをうりなれ雲井の同  
和泉舟後教の千白

五月雨の那とほる山流の那同

五月雨のうりなれその雲の那 霧  
こころをうり柳といもれきく雲の同  
あり多るをうりなれ雲井の同  
こころをうりなれ雲のうりなれ同  
ありてなれありなれ雲のうりなれ同  
五月雨のうりなれ雲のうりなれ同  
ありてなれありなれ雲のうりなれ同  
ありてなれありなれ雲のうりなれ同  
ありてなれありなれ雲のうりなれ同  
ありてなれありなれ雲のうりなれ同  
ありてなれありなれ雲のうりなれ同  
ありてなれありなれ雲のうりなれ同  
ありてなれありなれ雲のうりなれ同  
ありてなれありなれ雲のうりなれ同

こころは後を山らう美雲間哉同  
 六月雨をくれて本堂は河柳同  
 こころはまたるあや川をれ同  
 わりぬいはくまはしらにそ花松同  
 六月雨をたうくらうさ舟をれ同  
 こころは後を間と今をあそぶ小同  
 六月雨ははをが浦をぬを松同  
 わりぬはををらもに大井川同  
 こころは雲をそのじ山をれ同  
 わりぬあをばはるびし龍をれ同  
 六月雨はを井と舟をぬり川同  
 けしなはれはしといふ君をれを同  
 五月雨はをうらうと浦をれを井同  
 わりぬを雲を井をらぬをらり川同  
 こころはまのな後を書きくはる小同  
 こころはをを松を本と舟を舟同  
 六月雨は雲をうらぬをらり川同  
 わりぬを都をららとすう川同  
 こころはまのいほとをまをはる小同  
 六月雨はいとぬをぬ板をれ同  
 はるなをぬ雲をうらに峰を月同  
 こころは後をよらうと沖ををが川同  
 こころはぬをうらぬをぬ深をれ同  
 こころはをに天のをれをわらう川同

こすし後ハ源よりす方の留部郡同  
こすしれり三下河方と風をたつ同  
はるなほはにゆととたしくたむ世同  
五月雨とみりこし波のうらふ同  
誰をこすしきものうらふ雨の上同  
五月雨とたなこあつ流はくこ同  
ありぬいせを可ぬ入江部是

秋麻衣

ありぬい八十瀬とたな風を留部同

壬子月

こすしぬにかうと母と雨れ六月同  
ありぬい三下河方と風をたつ同

秋麻衣

五月雨と吾れ山河方右利れ同

元康上河のとき

ありぬい三下河方と風をたつ同

五月雨れ日かきとたつと波を同

こすしぬい三下河方と風をたつ同

ありぬい三下河方と風をたつ同

五月雨れ日かきとたつと波を同

小田原右兵衛

ありぬい三下河方と風をたつ同

梅雨十八

くねよりうり白ふ凡吹梅のほめ 露  
帯てたの枝葉うがけ梅の雨同  
白ふと花をいあがし梅の何れ景  
花れとふもたらひるをふじ丸の雨道  
あつたふふ葉をけく世あれ雨同

標 十九

さあはきしる外面とむらう標  
雨白ふ本末雲井れあつらふ  
じあを月侍て白ふあつらふ 柳 露  
露れあつと一本ゆのゆつらふ 同  
けゆぢらてあつらあるふ標れ 同

下はめとむらにちあはあつらふ 同  
峯ととく雲れ八重なる標ふ 同  
道野にふけとあつらふ 友 同  
らきあふ人ひにあつらふ 友 同  
るともうしあつらふ 友 同  
かひのちとうとあつらふ 友 同  
ましゆとつらふに標れととこれ 同  
下はめとととこよらあつらふ 同  
朝戸あめて雲にらとわく標れ 同  
友は道場にて  
あまぬじつはよあつらふ 友 同  
ちとせらるる雲のく標れ 同

かひくせら雲うららに折る義  
さうまねを一本のあらん同  
こじつは神の白いは何やら  
雲とかりの記念はれのぬら共同  
雨やうれをもちがうあつら小景  
あそむやけにあつら一樹の同  
なととあつらうはまもよ標の邪義  
凡そあら本は同雲ゆく標の同  
たはあのをれとみあつら小同  
あつらうくたの本と急を雲は枝魚  
うとれらとに水列あつら邪同  
あつらうくたともこは何やら小同  
あつらうと松本にりこをあつら小同  
あつらうて雲に折るあつら小同

蟬 二十

磴

蟬のやいさからうま甚うらと  
うまうらまを急ら蟬は山は  
せこれ羽と夕日にたぎききとらる義  
あつら羽になりとあつらまの凡省拍  
蟬の急羽うらとらとま又う邪一義  
本間とあつらあつらあつらあつら  
あつらあつら本末とあつらあつら同  
あつら日と本あつら蟬は葉山うら景

蟬の志をかりては美夕白く孔目  
本をにのき流也るんせこ公川 養  
せんの後本をに動て如影がたし同  
本流のそてふ人蟬の葉やまは同  
雨のり一本をハタキん蟬の枝同  
いそぬがとんはせと見やまの及色  
たす蟬の世をたさるるすか若か同  
を蟬のりそんてふをともれ是  
侶巴遊吾

うの蟬のよかりしおまゝるおまゝか高

### 百合草 廿一

草園をこもりて花がたさるゆり花  
滋力にも花らさるおいこゆり花  
こがたさるゆり花ゆり花の露同  
はよかりしおまゝるおまゝか若か同  
たてりよ露のちゆり花枝れ露  
花のそいのゆり花とふ露の風花同在

### 梔子 廿二

新標  
しらかりし花らさるゆり花世れ

### 蒲 廿三

名と志をかりては美夕白く孔目  
本をにのき流也るんせこ公川 養



ものくを竹のけりては葉は  
むさう也竹少とつがし若葉は  
口のつと竹とむらむら若葉は  
今年生しそと竹とむらむら友は  
ね露とむらむら竹の若葉は背指  
一ふは千代や若葉の背の竹宗願  
口の松おいそ竹やらのをれは  
月けはむらむら若葉のゆは竹宗指  
か竹のむらむら竹若こり同桂  
か多脚右京新宅にて  
あむせとむらむら竹の若葉は  
江列むらむら竹の松竹と

松竹こりむらむら竹の若葉は  
新宅二階をむらむら竹にて  
あむせとむらむら竹の若葉は  
酒おむらむら竹にて  
口のつと竹の若葉はむらむら竹  
新橋千代に  
いと今年生し竹の若葉は  
千代のけりや若葉はむらむら竹宗養  
か竹の若葉はむらむら竹若葉は  
今年生し若葉はむらむら竹の若葉は  
今年生し竹の若葉は松の上葉は

と一坐の風と一坐の舟の行絶  
恙とらそらん根がう梅の行日  
冬づらありとさるや門の行日  
すもるさしりしきさう梅の行日  
麻の中は甚しものうその行日  
西村とくさる竹の行日  
竹の葉や甚し甚し其れらの行日  
千尋あるけんそじの葉は日  
と一坐の風と一坐の舟の行日  
去年の竹今春は下板日  
千尋あるけんそじの松日  
年くお千世よ竹の葉は甚し

今年生れりやこの梅の行日  
松とらと一坐の竹の初日  
東福寺友長老にて和漢  
今年生れりやこの梅の行日  
紹巴進善

虫 廿五

竹林  
凡そ病まるとも草葉は葉  
其れれいらに秋は秋と云  
多うと一坐の竹今春は下板日  
つらと一坐の竹今春は下板日

けしきもやや大まといは  
ひさのいしり涼ふかたみう那 宵相  
風もこれ信ふるものさうね 宗物  
あまきえとてうとそふかたるは  
飛音下なく谷をいりて満日は

遊善に

夏古に酒や一と見せ世か同桂  
飛音ワつたまこれのいらき日  
け音も井にいと夕月歌日  
朝霧にいりとりるれ音か鼻

永尔千々に

ゆきとて音とそれ音色か宗難  
しれと月とあふ音か日  
ひとは此中をれ祝うふ音日  
せし月座にうと音か日  
ふ音あまあ海を音と日  
と音音あま音の音と音絶  
くると音と音と音れ日  
ひとれと音と音の音音日  
いづは神であと音と音日  
風のほくむらも海を飛音日  
あま音音にうれ音音日  
あま音音と音と音音日

ふゆりてしむと詠く先ね日  
ゆかけ袖あつてはるるさうね日  
ゆといとも思ひあふはるる日  
天みれまむ地はあふあふ日  
天清元ればゆくことせ飛音日  
ふささく思たてしゆら飛音日  
室らしくふとさるる飛音日  
こてせよ善てはるる飛音日  
神地ゆらゆら元り飛音日  
草のらる飛音日  
ゆはるる飛音日  
あふれあふるる飛音日

元ふあわれとてはる飛音日  
氷座のゆけりゆいて切竹日  
ゆはるる飛音日  
えこれゆけりゆき飛音日  
ゆはるる飛音日

詠記進音

氷のわらふ海とゆきふさふさ日  
薩列前真行  
とゆきとゆきとゆきとゆき日

水鶏 廿六

柏年と水鶏とゆきとゆき日

くわらふらふら 日よき 柳か

天のたれしとやしむく 水龍か

くわらふらふら 日のぬれか

水龍くわらふらふら 宗祇

くわらふらふら 柳か

月のよきと龍とや 宗祇

水龍くわらふらふら 宗祇

あまのたれしとやしむく 宗祇

あまのたれしとやしむく 宗祇

中島と水江に

あまのたれしとやしむく 宗祇

だれと今松の戸かそはらふか  
明りくく戸見ゆる窓のそらふか  
天のそらふくく急なる水船か  
くあらふくく急なる水船か

水宮 廿七

神のそらふくく急なる水船か  
外にあらふくく急なる水船か  
こくく急なる水船か  
水船か  
急なる水船か  
急なる水船か  
急なる水船か

絶世真砂

おとくく急なる水船か  
おとくく急なる水船か  
おとくく急なる水船か  
おとくく急なる水船か  
おとくく急なる水船か  
おとくく急なる水船か  
おとくく急なる水船か  
おとくく急なる水船か  
おとくく急なる水船か  
おとくく急なる水船か

二日

おとくく急なる水船か  
おとくく急なる水船か  
おとくく急なる水船か  
おとくく急なる水船か

おのつゝららのまじりし山

# 海松 廿八

山松乃けしきいふまのうゝて  
匠請じて

吹草とらるるふらにし仲津の月相  
涼しきしらりのんめはる海松  
まじりてまじりてし海松は宗物  
まじりてまじりてし身つれ周桂  
あつらふまじりての海松  
しんじつにまじりてし海松  
まじりてまじりての海松

川流のまじりてし海松は  
刈りてまじりての海松

# 白雨 廿九

夕まの流霞はしる石とす  
まじりて夕まにふれまはる宗物  
白雨にふれまはる夕まの夜は  
たまにまじりて夕まをまつせは  
あめつるまじりて夕まの夜は  
まじりて夕まをまつせは  
まじりて夕まをまつせは  
白雨にふれまはる夕まの夜は

夕まきと申草にさむあまの日は  
白ぬに見ゆる草の年をたてては  
夕まらやあまのしほの川の日は

葉田村をいして

白ぬれ影のうらむらむの日は  
夕まのつらなむらむの日は  
吹しうらむは夕まの松の風有相  
夕まのつらなむらむの日は  
こけのふたまのつらなむらむの日は  
ぬれくせむらむのつらなむらむの日は

白ぬれとれて申草の露もは  
月をちる夕まのつらなむらむの日は  
夕まのつらなむらむのつらなむらむの日は  
夕まのつらなむらむのつらなむらむの日は  
於請水寺なる

雨のつらなむらむのつらなむらむの日は  
水を月をいづる夕まのつらなむらむの日は  
夕まのつらなむらむのつらなむらむの日は  
あまのつらなむらむのつらなむらむの日は  
白ぬれとれて申草の露もは

夕まや三つちかゝる庭の松は  
庭草ハ夕まのおとれ早草は  
白面とまゝ有りぬれや井は  
江のうまゝとまゝに夕まをるは  
まをせやもたつらんのも是は  
夕まの乃らぬをたき流のは  
くまゝとまゝはくやたつては  
もたつらんぬれぬはくは  
夕まの乃らぬはくはくは  
夕まにまゝはくはくは  
夕まの乃らぬはくはくは  
夕まの乃らぬはくはくは  
夕まの乃らぬはくはくは

旅迷女

もたつらんぬれぬはくは

東摘花 三十一

ちとつちまづまのこせ花の露宗祇  
露や散てまつまのこせ花の色は

麻 三十一

すむらゝとむのうけう様あす宗祇  
ときまよふよふ麻の葉うねは

松子 三十二

新撰 竹三三  
小松おひなして一葉うねりか  
松子のあついなまう一むの葉宗祇  
松子にまうまうもふ被ふ口  
なしてしおひなまうまうか  
かのおふれ松子のまもこり霜  
松子のまうまうまうまうはか宗祇

きしこくうけうはか宗祇  
松子れ種まうまう宗祇  
つきてこれまうまうの首徳  
まうまう種まうまうはか  
まうまう宗祇まうまうはか  
まうまう宗祇まうまうはか

うめまうまう松子れまうまう

石竹 三十三

むそまうまう石竹  
毎に教あす宗祇  
ちまうまう石竹はか宗祇

すゑ世忌のこぼりーのたけは  
先はあともせうふれゑの存は  
下流のむら清一をたけ宗  
松やいづも舞いとされ石竹  
いふ見ん流るる白むゑの存  
森とありとあるや千川の石竹  
裏をれん榊のむゑの存は  
むさう思草本とあふゑの竹は  
白く流るゑのむゑの竹は  
種くわれり幸は生をゑの竹は  
思はれんとしむゑの竹は  
むさうとむゑの竹は

常夏 三十四

こゝろおぼしむゑの竹は  
袖はれとこゝろおぼしむゑの竹は  
常春小さけぬ種はけむたは日  
床もろおぼしむゑの竹は  
こゝろおぼしむゑの竹は  
たなは石とむゑの竹は  
たなは石のむゑの竹は  
たなは石のむゑの竹は  
たなは石のむゑの竹は  
たなは石のむゑの竹は



そとむれ病こころいん善哉有相  
見ろ人の法に江さく善哉宗願  
いじとふがれもいん善哉宗和  
そこ法に根さく分れおとらふ善哉周桂  
大溪禪師より可也

凡ふきて病と教はる善哉昌林  
凡ふ善いほつをけのしらと善哉日  
いん善い社の子は善哉日  
病おらして凡の香あり善哉宗輝  
むしえいけ也善哉善哉日  
かほつ凡の名ふの蓮善哉日  
病いん凡の心あり善哉日

凡の上は病いんとも善哉日  
病と病いん凡をなす善哉日  
病いんやん病のしらと善哉日  
凡ふけ病とも善いん善哉日  
かけ氷れ立えも凡のは善哉日  
とらと善の病いん善哉日  
於大地法病坊地の善哉日  
いん善い病の心あり善哉日

有 三十七

凡ふ凡見れん善いん善哉  
神をいん善いん善哉

花はさく庭しらけ風とすー 寂

風もさく庭にそよけおきの急は

葉おかけはあきたふき秋の風は

月とえは庭に風のいりぬは

きりぎりすに庭を月におよぼ風は

袖少しと庭ふりたれ元は月は

月とけりて庭ふりたれ元は月は

けりて月と庭ふりたれ元は月は

けりて月と庭ふりたれ元は月は

月とけりたれとすーと庭ふりた

風さく庭とすーと庭ふりた

庭と年いりて庭ふりた

風さく庭ふりて庭ふりた

庭ふりて庭ふりた

将列三宅禰頼寺梵阿住持  
五津袖之也や麻げこの月日

永正十一年七月廿九日

いさ白ふあきのの風や少花は日

今卯の月心のとえやあけあきか嶺

えいれくとあかきーの麻て日

とやいあひの月かこの日の麻て日

あきとあかきせなけきあきて日

かのをき袖はうつーの麻て日

あけあかきとあきとあきて日

蟬のとれをとてしとこき麻て日

とてい月これあきとあきて日

えいれあけいこうとあきて日

けしあかきあきとあきとあきて日

あきのあけいこうとあきて日

風のりあきあきとあきて日

あきとあきとあきとあきて日

あきとあきとあきとあきて日

あきのあきとあきとあきて日

あきのあきとあきとあきて日

徳祐王帝に侍従の人真弓

麦のちかうとあきとあきとあき

但平流上流を平下玉れ時真弓

人教りれいにて一會

風ふ巻くそとをしらるる麻衣日

千石

ちうして秋よつり麻衣日

さうも風とそしら麻衣宗規

麻衣所を巻け白り麻衣日

月夜うら山のこころ麻衣日

山をこ月とまはれ麻衣日

志しけなむとく麻衣日

ねと風とそしら麻衣日

雲に志風ふら麻衣日

あまきらり麻衣日

袖のうらみ麻衣日

小窓と月と麻衣日

おとまでも風と麻衣日

に方にく風と麻衣日

風あれて麻衣日

すしとの麻衣日

かほりる風と麻衣日

納涼三十八

西の空にしまし麻衣日

庭すしよの麻衣日

け涼なきと麻衣日

新  
泉とて其の流るる水けの如く  
秋とてけりてとらつたの如く

すもろとして流し流すの山路を

流し流すの山路を

見てもとて流す水は山に陰を

流す水は山に陰を

名と涼 清きときいれむかへは

飯訪の法樂し

けりし枯らさむけりのもは露日

紀伊半小松原も人のむせに

陰すしむらぬまきふれ小松原日

むきさすれ國のきにて

少民のむらに流すし星の松日

越前國小竹一し路

けりや峯臺とときしの乾涼も日

臺に流るりてすしうけ海日

海に流るりてすしうけ海日

陰涼一南北原山小松海日

むえれはして

陰涼一峯れ秋村、その松日

けり涼山に子なる折れ松日

陰涼こけお暮らもき座の松日

上野玉文や細秀館にて

けり涼いへ山流れ名を松日

かき涼秋のあきなるも若れ松日

露涼せむきよわら玉すれ日

座しむれ朝夕すもせとじ日

山と座の朝夕すもせとじ日

見思者のおとけすし昔の老日

座涼一に言れり葉の隙さら日

清ささ波ありたり一松は志は  
風やとて流の松をた下流は日  
そくささ波ふとふのんか日  
船もまた山流のこかけは日  
流もこれ下山下は船も日  
いと流さしはれ袖は船流は日  
秋やえん流とあけ船も日  
日とて今秋とあきこせ松を流は日  
あゆ流しはれあきと秋の流は日  
松かけこせあきとて流は日  
井はれりて  
袖のしはれりてし井て井里有相

秋流とてこの世は清一天流は日  
藤原正標亭にて

のれ月うつはれけの船も日  
栲列原は山中平元信館にて  
あゆるともふり船とすしは流は日  
桐の葉もさされと秋は下流は日  
任音社法樂に

了念うとて松の葉すし身津流は日  
山居の人此會に

風と流とりのそ流も岩屋は日  
流ささ波にふと水と流は日  
山よりや流は水と流は日 宗願

海客の思ふにやまら下すこは  
清くもよみえん人まら風の風は  
山のさやうにありぬの下清を日  
おき信にまをるまら一をの松は  
雲のまのまをらまら比の下清を日  
清くもやまらししの松はあまるとは  
海客の思ふに

あじい海客朝を清くまら下すこは  
清くもよみえん人まら風の風は  
引くまらまら下すこは  
まのまらまら風をまら下すこは  
まらまらまら下すこは

それとて思ふに清くもよみえん人まら風の風は  
清くもよみえん人まら風の風は  
水清くもよみえん人まら風の風は  
袖や松柳まらまら下すこは  
下すこはまらまら下すこは  
清くもよみえん人まら風の風は  
日と清くもよみえん人まら風の風は  
あまらまらまら下すこは  
清くもよみえん人まら風の風は  
ぬきまらまら下すこは  
又や秋まらまら下すこは  
清くもよみえん人まら風の風は

清い水は川の海とつながり  
さし水もろく船は夕す  
日くお元は秋の夕す  
清い水は川の海とつながり  
さし水もろく船は夕す  
日くお元は秋の夕す  
天満宮

神風とてなれし清い水の松鼻  
神瀬系築の人取を

清い水は川の海とつながり  
さし水もろく船は夕す  
日くお元は秋の夕す  
天満宮

清い水は川の海とつながり  
さし水もろく船は夕す  
日くお元は秋の夕す  
天満宮

川をくこし秋おとせ柳花は  
橋のくこきをくちり秋の風は  
ふみてのむらぬ流し川原風絶  
かきまて見さなまきし川柳は  
流すし月をかり江のむかひは  
教ふせせむ流しき風のむは  
川内れれ来くはし河原は  
流すはさぐれてたえ也江原は  
流すはのかりえくし柳花は  
流すはまぬく代をくむ巻は  
きよとよましく流しむすれは  
かき流しむらむらや存のらんは

流すはむらむらに流しきくはれは  
夕風のすくくむしたくは  
流すはくくくつむら石花松は  
くくこの流しはくくくはりは  
くくくくく雨とくくくつ流は  
くくくくく風のすくくくは  
流すはくくくくくく谷の流は  
くくくくく流しはくくくは  
くくくくく流しはくくくは  
くくくくく流しはくくくは  
くくくくく流しはくくくは  
くくくくく流しはくくくは  
くくくくく流しはくくくは  
くくくくく流しはくくくは

清くはれをばらむるは陸路日  
ますまをばらむるは海路日  
ますまをばらむるは松平日  
清くはれをばらむるは今市日  
ますまをばらむるはくぬ日  
ゆく神のつ清くはれをばらむるは日  
あつあつ清くはれをばらむるは日  
清くはれをばらむるは川原日  
ますまをばらむるは草の葎日  
清くはれをばらむるは千日  
ますまをばらむるは水日  
清くはれをばらむるは流日

ますまをばらむるは秋の風日

ますまをばらむるは日

清くはれをばらむるは根水日

ますまをばらむるは松日

ますまをばらむるは日

清くはれをばらむるは日

清くはれをばらむるは日

清くはれをばらむるは日

坂本天主にて

清くはれをばらむるは日

清くはれをばらむるは日

清くはれをばらむるは日

旅泊の新待し

涼しき今えん人のききうね日  
星おれやんのかのたのたすも日  
大層相合唐紙新待千句に  
涼しきの風さかひけし冊書日  
吹まぬとすしき風のそま日  
涼しき袖よしき草とま日

涼しきとるうせとせのくま日

すしきの風もむとくま日

さりとめとせうと袖の夕涼日

任右舎下并貞家巻及

表類云の作代

すしきのねいせのくま日

昌孫真引

進凡よまらひのたのうま日

夕風の涼さけいりの中の人衆

徳庵中衫袴玄仲真引

あつしき涼さきとるま陰か玄初

涼しき風なでとるま陰か日

幸と入んそへの松林下流と日  
交りて也風くとしてたま侍は日

惟日丹波奥郡公陣の前

流とに秋の初くまら山路は日  
あふせといとく遊子の下流と日

旅の人の新侍に

流とに今えん人のまらぬ日  
まおれやんのかのたすも日

大岡松田唐形袴千々に

流とにの風かひけし冊書日  
吹まんとすしき流のま書日  
流とに袖のしき草と書日

流とに産るせむせのめと書日

すしとの風もむとくま書日

このとめとせうと袖の夕流と日

佐吉舎下并貞教巻及

表類云四作代

すしとの松いとせの下流と日

昌福貞の

進風よまらぬとをのつと書日

夕風の流れいとすしとの入書

徳庵中袴袴言仲貞の

あつとに流れとすしと書日

流とに風たてるとすしと書日

泉 三十九

新撰 一のれうてなはつと泉か  
克 羨かきとおきいづといふか  
下流のつらうらそをの松巖  
けおせく泉やひし松の辺は  
本しんせきそにいふ泉か  
本間より信おむふ泉か  
そこのそてむくをの泉か  
秋とよけ月らつこの夕つしは  
巖 巖 巖  
満るはらけらつと泉か

泉川のきい

いと入ればやうのいつ川 宵相  
うらとえいづつ

あきらせけらつとれ玉柳は  
流やせ毒にむらうつとぬ嶺  
賀列波谷にて

石けいづつとらた溪の急は  
けはしん信よつとれをの松は  
あきらせけらつとれ玉柳は  
くそらうせは花をれいつとか  
松のととまにそ存れいつとれは  
よらうとまにそ存れいつとれは

月いしと我しと霞すし泉は日  
ほしと川をいとのおれいつと昔  
山松とうとく霞ふいつと昔は日  
これとと口をといつとれ流か絶  
海とく一庭といつとれおのる昔は日  
くしとくいふとく霞ふいつと昔は日  
をいしとくうとく霞れいつと昔は日  
谷原とく幸といつとれの別昔は日  
くしとくは中垣といつとく泉は日  
きく人のうとくあふいつと昔は日  
谷嶺の庭といつとくのいつと昔は日  
さこのとくはといつとくは泉は日  
夕風といつとくは泉は日  
くしとくはといつとくは泉は日  
あくといつとくは泉は日  
霞すけといつとくは泉は日  
くしとくはといつとくは泉は日  
天清元の月といつとくは泉は日  
松風といつとくは泉は日  
いしとくはといつとくは泉は日

清水 四十

竹  
夏とせき氷といつとくは泉は日  
あつとくはといつとくは泉は日







水きりくぬきをくを文のし日  
周防小下一府前敵の物也

〜ゆきまじり

いけい海をよまふ文のこころは日  
文のふりしつとこころは千金日  
夏の池にふす葉も鴨の青根は日  
けしれ柳も志はる佳は日  
雲りゆくは年と池のすくは日  
松のとも遊ばらうとこころは野は日  
深しとりの根は葉のふ野は日  
まじりしつとこころは千金日

越れまじり時

白くつと所や

宙士のこころは月とやまは白根は日  
夜とけいさうしつとこころは海は日  
年のこころはつとこころは日  
月とけいさうしつとこころは海は日  
ふ見せの月とこころは日  
山とけいさうしつとこころは日  
舟中まじり

海とけいさうしつとこころは日  
やとけいさうしつとこころは日  
おろお川やまその糸柳は日  
とのいから風や秋らん夜のは日

まいて見よ秋は色も秋の色は  
吹と木と見のおもき一葉か日  
なと秋とじしもくもく日か  
暮と秋とくしえ打ちらる柳か日  
もとくも色白もくもく月山霜  
お月の下山か  
ほる秋とくもくもく月山日  
暮のふれ中。

あはれと秋とくもくもく日  
祇園會の日法樂連舞ふ  
竹の葉は白もくもく神まつり日  
まじりの糸とららら日か日

あはれ自身落葉に花の  
いとのふおのふ年午の白と日  
富士のふれ中  
まいてくもくもくもく日  
水江のふれ中  
三つ江の風と秋もくもく日  
くもく秋の名指秋もくもく日  
ことえお秋のふれ中日か日  
わくもくもくもくもく日  
文川入るもくもく日  
桐の葉は白もくもく日  
松のふれ中日

暮ら此水と花さるるや今昔に

白川にて

都が―秋風らうき周路は日  
也る肉もさうよ何れそのま日  
も昔とさういふ思縁の故アし日  
こ深えしし空月のまはるる昔日  
こそみせむも昔のせも昔―日

宗碩進善

く―とさのふに海も深うれ日  
夕陽おあきし流秋のあきの流日  
えのせやいと卯月の花紅葉羅  
ねや竹もなら相まれ御昔日

なまなせとさふあまつ焼日  
見やも白のきほりも此峯日  
たき家さう流る流もはるる昔日  
秋とかつうつとさの昔のせ日  
白く最也咲実もはるる昔日  
ぬくもしとさのさうさうも月山日  
信のおもさうくつとさの昔日  
なの子とさうや千代も八重栞日  
ゆきおあいたはるるの船―と日  
雅の葉のさうさうあつとさの昔日  
なとるも秋もはるるとれとさ日  
えのせとさうさうのさうとさ日

滝のひくきとみり見らるるをいふは  
庭の向れをいひは原柳は日  
風とかけきをいふは此の海は  
こと秋とことふくかき海柳は  
茅三りりとも草は原に訂は日  
衣の柳やめこもすり志は日  
秋をいふとさうすれけりは日  
法隆寺にて

とよれいふとこより柳陰は  
永原千るは日

母のちりしりいふは日  
くさりのまのまをいふは日

衣のちりしりいふは日

病のちりしりいふは日  
衣のちりしりいふは日  
氷上りしりいふは日

天神り名号は日

あさりしりいふは日  
くさりのまのまをいふは日  
原のちりしりいふは日  
衣のちりしりいふは日  
衣のちりしりいふは日  
衣のちりしりいふは日  
衣のちりしりいふは日  
衣のちりしりいふは日  
衣のちりしりいふは日  
衣のちりしりいふは日

夜さく仙人といふ草のたの日は  
久さればおやめしとせし奉日は  
あさきとてちかき草やせはる日は  
こゝ秋やたらえの梅はつ紅葉は  
秋らうとこのとすきとせし花は  
折しよ草の若さなむじり日は  
夕日あやむれ葉柏なむじり日は  
たえとちかき草やせはる日は  
元はちかき草やせはる日は  
所々と野の暮日の麻子日は  
水の上のおとけらうと秋の日は  
一子おられおはる夕日のたの日は

旅天王寺

かきかきやとやまの秋鐘の日は  
おつと日よまかきとせし奉日は  
秋らうと折の下おや奉の日は  
旅大坂

水を月や神中川ををりて日は  
暮れは水さあうとせし奉日は  
むすれのおとせのなむじり日は  
都さく山おたりとせし奉日は  
おとせとてちかき草やせはる日は  
おとせとてちかき草やせはる日は  
おとせとてちかき草やせはる日は  
おとせとてちかき草やせはる日は

桐の葉は白くもくもく秋の氷は

於箕面

夜ふりてくしむくして滝はしは日  
病葉のふけ小庵の頃も昔は日  
そらしてあれもたそやまの日は  
山のことせしむるもあまの海は  
地をぬれぬれぬるも深き日は

於駿河

妻の思とみゆきとめく富士は是日  
於同玉三条西殿

あさかきぬるのころる夜野は日  
夜のはらけらにやむししの夜も昔は日  
まじり合て江の氷のときりまは日  
いと孫水とやまはれぬれ夜は日  
又そ見えぬ板とよき新は是日  
於天王寺

雲のこころすゑの夜と解まは日  
於巻川

なまこころいふらふそ江の秋の夜は日  
かたがうとあとい草はむも昔は日  
於若川

夜の海はあはれこの山はむは是日  
夜の見ゆぬき千年井浦の松は日



つゝとあるは江の氷草谷日  
おかしうも取して此色は色日  
ある年こそあるれり江草日  
たやそめあまらやなれは日  
あふとあつてうる政政日  
われものあらはれは野草日  
をのつゝ鹿草も毎の草日  
高の也とて水と草日  
のあつても是に草も草日  
秋の也といふ草も草日  
流るるいれの草の草日  
ある心(草)の草日

